

令和7年度学校評価自己評価表

学校名：廿日市市立金剛寺小学校

学校教育目標	夢をもち、自らチャレンジする 金剛寺っ子の育成	〔ミッション ・ビジョン〕	「子どもの夢を育む」学校 ～児童・教職員・保護者・地域の協働～
--------	----------------------------	------------------	------------------------------------

経営目標に向かう ストーリー	「夢をもち、自らチャレンジする金剛寺っ子の育成」ために、「互いに学び合い認め合い高め合うチーム金剛寺」というキャッチフレーズのもと、学校経営を行っていく。未来を担う子どもたちに、今、必要とする力を育むため、個別最適な学びを提供する。そのために、まず職員が個別最適な働き方をチームとして行う習慣をつける。それを通して、緩やかな協働と新しい価値を生み出す充実感を私たちが味わいながら、児童にも対話を通して児童主体の活動を活性化させていく。
-------------------	---

評価計画				現 状 値	目 標 値	中 間	最 終	達 成 度	評 価
中期経営目標	短期経営目標 【◎重点項目】	目標達成のための 方策	評価指標						
① 主体的に学びを進める児童の育成	◎学び続けようとする態度の育成	・学習計画づくりと家庭学習の充実	・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる」全国学力・学習状況調査児童質問紙評価【市共通項目】	96 %	98 %	94 %			
	◎自律し、協働的な学習を進める力の育成	・協働的な学びの場の工夫と充実	・「理由をつけて自分の考えを説明することができる」児童評価【校区共通項目】	95 %	97 %	86 %			
	・本質的な問いの追求	・単元構想シートの効果的な活用	・各教科の見方・考え方を実感できる学びが作れている」職員評価・児童評価	96 %	98 %	75 %			
② 児童の自治的能力の向上	◎課題に気づき解決しようとする態度の育成	・課題解決を目指した児童会活動の計画的な実施	・「係・当番活動や委員会活動等でみんなの生活をよりよくするために考えて行動している」児童評価	96 %	98 %	93 %			
		・自分の成長を実感させる定期的な振り返り	・「自分の良さや自分らしさが認められている」児童評価【校区共通項目】	93 %	95 %	83 %			
	・規範意識の醸成	・ICT活用・生活のきまりの共有と再考	・「1年を通じて、情報モラルやリテラシーを身に付けるための取組を計画的に行っている。」職員評価	100 %	100 %	100 %			
③ 働き方改革の推進	・教職員のやりがい、充実感の向上	・風通しの良い職場づくり	・「自己の役割を理解し、風通しの良い職場づくりの1役を担っていることを自覚している」職員評価	87 %	90 %	100 %			
		・自己の働き方の見直し	・「自己のタイムマネジメント力は向上している」職員評価	100 %	100 %	88 %			



結果と課題の分析・改善方法等（中間）		
<p>○「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができる」の児童の自己評価は、94%であった。児童が選択肢と自己決定を行える環境を設定することで、課題の解決に向けて自分から取り組み、学び続けようとする姿勢がみられたことが考えられる。今後も、家庭学習で取り組んでいる自主学習や自由進度学習等で他の児童の学びを紹介したり、学び方を評価したりすることで、児童の自ら学びに向かう主体的な態度の育成を図っていく。</p> <p>○「学習でも生活でも、理由をつけて自分の考えを説明することができる」の児童の自己評価は、86%であった。理由をつけて説明することができないと感じている児童が14%であった。授業の中で、自分の考えを持たせる場面や自分の考えを理由をつけて相手に伝えることができるペアワークやグループワークの場の設</p>	<p>○「係活動・当番活動や委員会活動などで、みんなの生活をよりよくするために考えて行動している」と答えた児童の割合は、前年度の96%から93%へとわずかに減少した。今後は、これらの活動にゆとりをもって取り組めるよう、活動時間を確実に確保していく必要がある。また、来年度に向けては、朝の時間を活用した学級活動の充実を図り、児童が主体的に学校生活をよりよくしていこうとする意識の向上を目指していく。</p> <p>○「自分の良さや自分らしさが認められている」と答えた児童の割合は、83%であった。約2割の児童が認められていると感じていないという結果となった。1学期の取組としては、学校行事である運動会でお互いの良いところを伝えあったり、学級での友達の良いところを伝えあったりする活動を行っている。2学期も引き続き、学習</p>	<p>○「自己の役割を理解し、風通しの良い職場づくりの1役を担っていることを自覚している」の職員の自己評価は、100%であった。教職員のほぼ全員が「風通しの良い職場づくり」に協力する意識をもってきている。さらに、心理的安全性が高まるように、教職員集団の意識の醸成を高めていきたい。</p> <p>○「自己のタイムマネジメント力は向上している」の職員の自己評価は、88%であった。半分以上の教職員が異動してきており、新しい職場での慣れもあると感じている。それぞれの強みが生きるような教職員の働き甲斐を高める取組を行っていくことで、ほぼ全員が自己のタイムマネジメントが高まったと実感できるようにしたい。</p>

<p>定をして、その考えに対して教職員が評価を行い、自分の考えに対して自信を持たせるようにしていく。</p> <p>○「各教科の見方・考え方を実感できる学びが作れている」の職員の自己評価は、75%であった。各教科の見方・考え方を実感できる学びが作れているとあまり思わない職員が25%であった。考えられる理由として、若い教職員が増え、各教科の見方・考え方への理解の不十分さと、校内において、どのような指導や学習が「各教科の見方・考え方を実感させる学び」であるかの共通意識が不足していると考え。今後は、校内研究と合わせ、各教科の見方・考え方の理解と指導方法について研修していく機会を設けていく。</p>	<p>発表会等を中心に、一人一人の良さを伝えあう活動に力を入れ、一人でも多く、「自分の良さや自分らしさ」が認められていると感ぜられるように取り組んでいく。</p> <p>○「1年を通して、情報モラルやリテラシーを身に付けるための取組を計画的に行っている」においては、年間を通して計画的に取組を実施しており、下半期においても、道徳科の授業や第2回情報リテラシークイズなどを通して、学校全体で取組の充実を図っていく。</p>	
<p>学校運営協議会より</p> <p>○働き方改革に関しては、新しく赴任した先生も多いので、新しい風が吹けるよう、先生方が自分で決めて自分で判断できる場の設定が必要ではないか。教師が伸びやかに取り組むことで、児童も伸びやかに過ごすことができると思う。裁量が大切だろう。</p> <p>○金剛寺小学校では、ゲーム等の課題はどうか。課金の問題とか気になる。(情報リテラシーの学習等をおこなっていることから)保護者の理解も大切だろう。</p> <p>○縦割り班掃除など、異学年交流を行っていることが、七尾中学校でも効果的である。異学年交流が中学校での持ち味になっている。中学校の生徒会と児童会の連携があるといいと思うが。</p> <p>○放送委員会が放送の見本を見せることで、放送の仕方や発表の仕方が上達するのではないか。低学年も聞いているので、高学年が見本を見せることが大切である。</p> <p>○教師の話すスピードが速いように感じる。配慮が必要な子は聞きとれているだろうか？話すボリューム・スピード・強弱を意識するべきではないか。</p>		



結果と課題の分析・改善方法等（最終）		



学校関係者評価を受けての次年度の方針・方策		